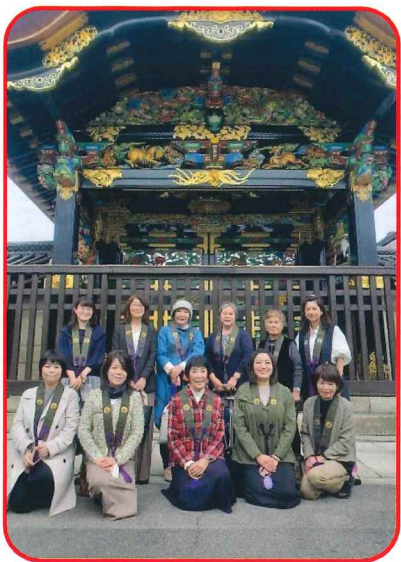


10月27日(木)、島上南組寺族婦人会55周年記念行事を行いました。ご本山に参拝し、修復が完了して綺麗になった阿弥陀堂御内陣と唐門を見学しました。当日現地では、ご本山にお勤めの安楽寺ご住職に案内をしていただきました。

今回の行事を通して、これまで会を支えてこられた諸先輩方のご苦勞に感謝するとともに、現会員の一人として、ご縁が次代に繋がるよう頑張っていきたいと思えます。



11月22日(火)、円正寺にて、令和4年度第1回研修会を行いました。研修では、高槻市役所長寿介護課の職員をお招きし、「健康を維持するポイント」と題して、運動筋力の必要性と、食生活の大切さについて、お話を聞かせていただきました。



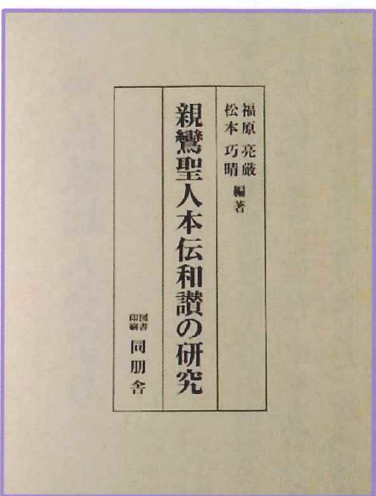
尊重寺第十九代住職松本巧晴の本葬儀は十一月三日、当寺に於いて、島上南組々長・正覚寺住職本田一成師の導師により門徒葬にて厳肅に執り行われました。葬送の儀には、親戚をはじめ有縁のご寺院、門信徒の方々が遠近各地よりご参りいただきました。

前任職は半世紀にわたりその任を全うし、境内各建物の修繕や改修、本堂の大修復など、門徒の方々といっしょに定年まで勤め上げました。退職後は少し時間もでき、趣味の古本屋巡りや、ヴァイオリン演奏のコンサートを聴きに行くのが楽しみでした。当時、京都の大原寺で住職をされていた本願寺派勸学の福原亮蔵先生を恩師と慕い、講義をよく聞きに通っておりました。その師亡き後は、研究資料を託されて「親鸞聖人本伝和讃の研究」の執筆を続け、共著として出版されました。

私が入寺してからの十五年、様々なことを日々学ばせていただきました。この度の逝去にあたっては、「ひとたび無常の風来たりぬれば、薬石効なくまことに命はかなきこと風の中の灯に似たり」のお言葉を、その身にてお示しくださったと感じております。

享年九十三歳。

称名念仏



# 島上南組 だより

浄土真宗本願寺派  
2023年(令和5年)1月  
第17号  
編集・発行  
高槻市野田正覚寺内  
島上南組実践運動委員会

## 組長ごあいさつ

島上南組組長 本田一成



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆さまお変わりありませんでしょうか。新型コロナウイルス感染症が日本で確認されてから、既に約3年が経ちました。毎回、この冒頭のご挨拶で、コロナのことを話題にするのですが、組報が発行される度、書いている時期とその状況が変わっているため原稿を書く難しさを実感します。

この原稿を書いている今も感染が拡大し始め、終息の見通しが立っていません。組長をさせていただいてからも、まもなく3年になります。この間、組の行事がほとんどできない状況が続いています。早く安心して皆が集えるようになることを願うばかりです。

さて、私事ですがここ最近、前住職である父の「老い」とのおつきあいが始まりました。父は現在91歳です。昨年の夏頃から暑さに外出を控える

ようになり、ベッドで横になる時間が増えました。それとともに脚も弱り、徐々に手助けが必要となってきました。今は10年以上前に母を介護していたときのことを思い出しながら、要介護等認定の申請やデイサービスの申し込み、福祉用具レンタルの手続等に追われています。

父は本人曰く小学校4年生から連夜参りをしていたそうで、昭和38年2月に祖父が亡くなってからは住職として、ご門徒の皆さんと共に永年、寺を護りご法義相続に努めてきました。昭和52年からは島上南組組長としても皆様と一緒に過ごさせていただきました。冗談ばかり言い、皆様を困らせることも度々だったと思います。朝から晩まで一日中動き回っていた父が徐々に弱り、「老い」の現実を目の当たりにしています。同時に私自身その姿に向きあわなければならぬ日々となっております。

あなた 往く人

私、少し遅れて往く人  
ともに浄土へ還る人



〔長倉伯博『ミトルヒト』から〕

本年もどうぞよろしくお願いたします。

合掌